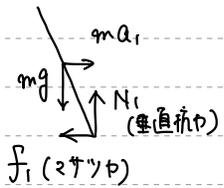


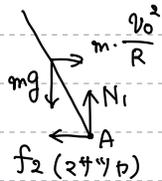
I (1) 加速度を a_1 とする。剛体棒ととりに動く視点との力のつり合い。



$$N_1 = mg, f_1 = ma_1$$

$$f_1 = \mu N_1 \text{ のときの } a_1 \text{ を求めよ。 } a_1 = \mu g //$$

II (1) 剛体棒ととりに円運動する視点とを以て。図のA点まわりの力のモーメントのつり合い。



$$mg \cos \theta \cdot \frac{L}{2} = m \cdot \frac{v_0^2}{R} \sin \theta \cdot \frac{L}{2}$$

$$\therefore \tan \theta = \frac{gR}{v_0^2} //$$

(2) 力のつり合い。 $f_2 = m \cdot \frac{v_0^2}{R}$

$f_2 = \mu N_1$ となるよりの v_0 を v_1 とする。

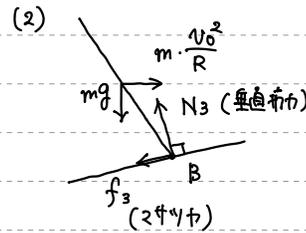
$$m \cdot \frac{v_1^2}{R} = \mu mg \quad \therefore v_1 = \sqrt{\mu g R} //$$

(3) 進行方向と逆向きに大きき ma の慣性力が生じる。真上から見た図に示す力のつり合い。

$$f = \sqrt{(ma)^2 + \left(m \frac{v_0^2}{R}\right)^2} //$$

(4) $f' = \mu N_1$ のときの a を求めよ。 $a = \sqrt{(\mu g)^2 - \left(\frac{v_0^2}{R}\right)^2} //$

III (1) II (1) と同様にして式を立てるよ。 $\tan \theta = \frac{gR}{v_0^2} //$



剛体棒ととりに動く視点との力のつり合い。

$$f_3 = m \frac{v_0^2}{R} \cos \varphi - mg \sin \varphi$$

$$N_3 = m \frac{v_0^2}{R} \sin \varphi + mg \cos \varphi$$

$f_3 = \mu N_3$ のよりの v_0 を求めよ。

$$v_2 = \sqrt{\frac{\mu + \tan \varphi}{1 - \mu \tan \varphi} g R} //$$

(3) $\left(\frac{v_2}{v_1}\right)^2 = \frac{1 + \frac{1}{\mu} \tan \varphi}{1 - \mu \tan \varphi} > 1$ である。 $v_2 > v_1$

よって、向配があるよ。滑り始めに力大きき速さで円運動できるため。